

第4回この国のあり方に関する研究会記者会見録

日時 : 平成22年3月11日(木) 17:30～18:00
場所 : 都道府県会館6階知事室
出席知事: 野呂三重県知事(座長)
加戸愛媛県知事(座長代理)
中川全国知事会事務総長

(事務局)

お待たせしました。只今から第4回この国のあり方に関する研究会についての共同記者会見を始めさせていただきます。本日の出席は、座長の野呂三重県知事と、座長代理の加戸愛媛県知事でございます。配付資料は、お手元の会議次第、出席者名簿、討議資料1、2でございます。それではまず、野呂三重県知事をお願いします。

(野呂三重県知事)

それでは、今日の研究会のご報告を申し上げたいと思います。

まず、1枚目の資料にありますように、今日は研究討議としてここにありまのような討議をいたしました。大きく分けて、この国のあり方の実現に向けての政策の方向性と政府の方向性につきまして、お手元の資料の最後の方に付いている討議資料に基づいて、色々ご意見をいただいたところでございます。

ご出席の方につきましては、名簿にございますが、今回初めて研究会に出られたのが群馬県の大澤知事、栃木県の福田知事、奈良県の荒井知事、いずれもこれまでやむを得ず出席をできなかったという状況の中で今回ご出席をいただいたところでございます。

この資料につきまして、事務局の方から少し説明をしたうえで、各知事さんからご意見をいただいたところでございます。

どういう意見が出ていたのかということについて少しだけ申し上げますと、まず、討議資料1、2については、新たな社会基盤としての次世代育成ということが1番上に書かれているところでございます。この中で子育てとか、教育サービスという記載をしているところでございますが、このことにつきまして、人づくりということが、国、地方を通じて共通の基盤であり、そういう意味では大変教育というものが、重要なことであるというようなご意見が出ました。若干教育について、色々議論がその後続いたところでもございましたが、ご

意見の中には、こういう中に教育改革の項目も少し入れたらどうかというような意見もございました。

それから人づくりが大事だということについては、知事さんから短期的な急務を要するような人づくりもあると、例えば社会を担う人材、医師とか看護師、こういったところは急務を要するところではないかという意見も出ていました。

それからこの資料にもありますように、ナショナルミニマムという言葉が討議資料2にも2か所ほど書かれていますけれども、これにつきましては、どこまでナショナルミニマムについても表現していくのかという議論がございました。これについては、教育という議論の中で、教育について、まず目標を立てて必要な財源を確保していく。そういう観点から、国がやるべきこととしてナショナルミニマムがあるというご指摘もございました。

それから、その他の意見としては、公共事業等のインフラ整備につきまして、今回のこの資料の書きぶりでは、討議資料1、2、「新たな視点の公共事業」ということで、ストック重視への転換というようなことが書かれているところではありますが、やはりストックだけでなく、必要なインフラ整備の重要性ということについてご意見も出ておりました。

それから別の方から、いわゆるグローバル、ナショナル、それからローカル、ファミリーといったレベルで考えたときに、ローカルの視点から課題を挙げて、そして国との合理的な役割分担をしっかりと提示をしていくべきだというご意見もありました。

それから、産業政策の部分におきまして、今回の産業政策についての書き下ろし方は、前回の資料では、競争的産業政策とか地域密着型、生活密着型産業政策というような、そういう項目での整理の仕方を表現していた部分がございました。

今回は、視点を少し変えた中で、資料のような記載をしたところでございます。前回の国際競争力を高めるような視点とか、あるいは地域に密着したようなものというのは、この中には整理の仕方としてちりばめられているところでございますが、このことにつきまして、国際競争力を高める産業政策もきちんと強調すべきではないかというようなご意見がございました。

それからその他に、外需による経済発展ということよりも、もっと内需指向を目指すべきではないか、地域でお金が循環するような経済が大事であるというようなご意見もございました。

それからその他には、「絆」のことについて、「絆」の中心には家族ということがあるべきだと、これは少子化とか、婚姻率が非常に少なくなっている、そういう現象を捉えて、「絆」の中心にもっと家族というものをしっかり据え

るべきだと、こういう意見も出ていたところでございます。

こういう各般ご意見をいただいたところでございますけれども、今回4回目の研究会ということで、もう年度末の3月の会議がこういう状況でございます。もう、ぼちぼちまとめなければいけないという段階でございますので、これまで4回にわたる議論の中で、色々いただいたこと、そしてこれまで私ども整理をしてきたこういう項目立てについて、次回にはこれをある程度文章化して、それで最終のまとめに入っていく議論をしたいということでお話を申し上げたところでございます。

したがって、次回予定しておりますのは、4月16日金曜日午後3時から5時で開会をさせていただく予定でございますが、その際には、これまでの議論をまとめて文章化した形でご議論をいただき、最終まとめに入っていくことにいたしたいと、こういうふうを考えているところでございます。

私からは以上ですが、座長代理の方から補足的にまた申し上げていただきます。

(加戸愛媛県知事)

小さいことですが、家族の「絆」以前の問題として、結婚をしない状況ということに関する危機感を持った発言がございました。子育ても重要だけど、それ以前の問題がもっと重要だという指摘がございました。

【質疑・応答】

(記者)

4月に最終まとめを発表されるということでよろしいですか。

(野呂三重県知事)

いえ、そうではありません。4月16日にこれまでの議論を一応まとめ、文章化したうえで、それに基づいて議論をいただくということでございます。出口がいつどういう形になるのかということについては、多分この4月16日の議論で方向を付けるということになろうと思います。

(記者)

知事としてはだいたいどのあたりにまとめたいというのはございますでしょうか。

(野呂三重県知事)

会長とこれまで相談をしている状況で申し上げますと、今年の7月に全国知事会議がございます。最終、遅くともここで皆さんにお示しをする。

あるいは一方では、政府の方では、この国のあり方に関わる色々な制度設計についての議論が進もうとしているところでございます。そういうことからいきますと、私どもとしても一定の発信をなるべく早くしていった方がいいのかなと思います。

また、知事会そのものでも、今色々な課題に向けて、それぞれの委員会だとかプロジェクトチームでの議論がされております。そういう議論のこれからの制度設計に関わるような議論については、基本的なベースとしてこの国のあり方に関する研究会のまとめをご活用できるようになればと思っております。

したがって、早いほうが良いとは私も思うのですが、議論もきちんとし、手続きもしていかなければいけないので、それについては今後会長とも良く相談をして参りたいと考えております。

(記者)

研究会の会合自体は、次回の4月16日が最後という形になるのでしょうか。

(野呂三重県知事)

そうではありません。今申し上げているように、16日の議論を踏まえまして、最終の出口をどうするかということを決めさせていただくということになると思います。できたら事前に、知事さんにできるだけ早く文章化した16日に議論をする資料をお届けして、事前に文章での意見もいただき、当日の議論も踏まえたいと、後のことについて方向性を決めたいと思っております。

(記者)

2枚目の資料に、具体的な制度設計に係る議論で、「道州制特別委員会」等の各委員会で議論とありますが、今基本的にそのプロジェクトチームの方が盛んに議論されておりますが、これはプロジェクトチームの中でも議論していく内容になっているのでしょうか。

(野呂三重県知事)

ここに書いてありますのは、実はこの国のあり方に対して知事会で良く出てくるのは、「この国のかたち」というような、そういう議論が良く出てくるわけですが、この言葉を私ども言うときには、使い分けとして、「この国のかたち」というような、国と地方の仕組みのあり方みたいな、そういうことに係る議論という意味で、あり方に対して次の議論としては、例えば道州制だとか、地方

分権、これらの特別委員会が書いてありますが、もっと丁寧に説明すれば、この国のあり方の議論に基づいて、色々な具体的な福祉だとか、医療とか色々なセーフティネットだとか、教育に係る問題だとか、そういう具体的な議論に受け継いでいきたいと思っていますので、多分全国知事会のすべての委員会等で議論をされておることに大きく関わってくるんじゃないか、あるいはそのベースに活用していただきたいとこういう意味で、ここのところは書いているところでございます。プロジェクトチームの議論でも、それは同じように言えることとさせていただきます。

－以上－